

令和7年度 全国競技運営責任者会議 報告 【要旨】

1. 2026年度 競技規則修改正提案【以下、特に説明のあった所、及び石川県陸協に大きく関係ある頁を記載します】

- ・修改正の多くは、英語訳の適正化と誤解されないように文言等の精査によるもの
- ・WA は、6回/年の修改正をしている。日本は、年度で修改正している。
→WR kなど競技の国際化を考えると今後、年度途中での修改正もあり得る。

・CR9 [国内] (明確化)

競歩でJRWJを任命するときは、陸連に事前申請が必要である。

→資格を有していても、陸連を介さない場合、認められない。

・CR31.14.4 (明確化)

混成競技の世界新記録・日本新記録について

→同じ競技者が2回目の不正スタートをした場合…世界記録・日本新記録と認めない

※しかし、記録自体は公認される

→異なる競技者が2回目の不正スタートをした場合… ” ・ ” を認める

・CR32 (注意喚起)

新規種目の「世界記録」「U20世界記録」・・・2026年の1月1日から認定開始

→導入されてからの日にちが浅いので**能美競歩で更新される可能性高い**

→ハーフマラソン競歩…【男子】1:21:30 以内 【女子】1:30:30 以内

→マラソン競歩…【男子】2:56:30 以内 【女子】3:17:00 以内

・TR5.1 (新規)

競歩競技では、膝の部分がはっきりと見える服装を着用

→歩形が確認できるように！！

・TR5.1 (新規)

靴底検査中に**靴底厚さを計測することを想定していない。**

→WA のリストにある（市販されている）靴は、基本的にリストにあるので測る必要はない。**（現在の制度から考えれば抵抗があるかも・・・ですが、審判業務の簡略化を考えている様子。「以下私見」実際は、リストに照合する手間を考えると、怪しければ計測した方が早いかも・・・従来通り、疑義がある靴は審判長権限で計測できます。）**

・TR5.2 (新規・明確化)

駅伝のシューズは、道路競技と同様40mmとする。

→問い合わせが多いので明確化した。

→**競技レベル（中学等を考慮し）を考えて適応するかは、主催者判断とする。**

【中学校の登校用シューズなどを排除するものではない。もともと非公認なの

で、陸連としてこだわりを持つものではない。】

→クロスカントリーについては、靴底厚さに制限はない。

・ T R 7.1 (明確化)

レッドの前にイエローが提示されるべき、しかし、悪質な行為には一発レッドだが不誠実に競技する場合もレッドを出すべき。(もっとも、イエローの前に注意や警告がなされるべきである。)

・ T R 8.7 (改定)

上訴金の値上げ・・・10,000 円→20,000 円 (国際大会は 100 ドルは変更なし)

→選手の心情を削っての上訴が乱発していることへの対策。

例) パラ 20,000 円・スキー100,000 円など他競技も参考に決定

・ TR9 (明確化)

性別による競技区分

【男子競技】【女子競技】【男女混合競技】

→男女混合競技・・・男女単一競技として行う。成績は男女一緒に表記。

→男女同時実施競技・・・成績が男女別に表記。

・ TR16.5 (修正)

不正スタートの“グリーンカードの提示”について、出発審判員の提示に代えて、スクリーン (電光掲示) やライトタワーでの提示でもよい。

→進行効率化と観客へのアピール「私見：従来通りの方が進行はスムーズかも」

・ TR17.3 (英語訳の明確化：WA に確認済み)

曲走路の内側を踏んだかどうかの判定。

→走動作の中で一瞬でもラインを踏んでいれば踏んだと判定する。

→一步の動作の中で、“足首を捻る”局面があるので判定に注意する。

→地方大会では、ビデオ判定がないので監察員の記録用紙がエビデンスとなる。

→あらゆる映像資料 (主催者以外が撮影したものでも) 有効な資料として扱う

・ TR17. 5.1 (改正)

8 0 0 m のブレイクライン

→200m スタート地点付近の定点からの等距離を基準に引いたラインから、曲走路の最短距離への地点を基準に変更

【公認満了が 2027.4.1 以降の検定から適用】

※競技場の公認更新時に変更の必要…業者が把握していると思われます。

・ TR17.5.2 (改正)

二段スタートの代用緑石について

→従来の代用緑石の他、150 mm～500 mm の高さのコーンを置く

→ただし、**コーンを置く場合 200 mm 外方のスタートラインの改修が済んでから**

【公認満了が 2027.4.1 以降の検定から適用】

・ TR22.1 (改正：WA 基準の追加…**国スポは国際基準で実施**)

300 mH に一般が加わる。

すべてのカテゴリーで 300 mH の国際 (WA) 基準が加わる。

→国際・・・300 m で 7 台 (400 mH の位置に準ずる)

→国内・・・300 m で 8 台

→詳細は、TR22.1 の表を参照

・ TR22.1/TR22.3 [国内] (新設：国際との違いの明確化)

詳細は TR22.1 [国内] および TR23.3 を参照

・ TR22.6 (明確化)

故意・故意に関わらず、自レーン・他レーンのハードルを移動させてしまった時

→レースに影響がない (リズムの変化・ストライドの変化・走方向の変化など)

または、重大な影響を及ぼさない限り違反 (侵害行為) と認めない。

・ TR24.1 (改正)

4 × 100 mR 男女混合の追加

・ TR24.4 (追加)

規定に反しない限り、テープを 1 枚以上に切り裂いて異なる形状の“一体形構造”のマーカーを作ることができる。(50 mm × 400 mm の粘着テープで 1 か所は変更なし：矢印など独自の形を作れるが、一体である必要がある。点線など一体でない物は不可)

・ TR24.6 (修正)

バトンを落とした時

→競技者はバトンを拾うために自レーンを離れることができる。ただし走行距離が短くなることや、他の競技者を妨害してはならない。(内側に落とした時に注視してください。)

→フィニッシュラインを通過するときは、当該チームのバトンを保持していなければならない。(フィニッシュ前で落としてフィニッシュの向こうに転がっても、保持してフィニッシュし直す必要がある)

・ TR24.11/TR24.12

男女混合リレー (4 × 100 mR / 4 × 400 mR とともに) 【男→女→男→女】の走順とする。

・ TR28.1

棒高跳の連続試技をする場合

→審判員は、次の試技の前にバーの位置を変更するか確認する。

2. シューズについて

★WRk大会で着用を認められるのは、WA認証シューズのみ。

→靴底厚さの計測は原則不要（リストとの照合）

→靴底厚さが規定以内でもリストに掲載されているものである必要がある。

★IH以上の大会は、シューズ確認専門の「シューズ・コントロール・オフィシャル」を配置

★クロスカントリーは適応外

3. 競技会における広告・展示物に関する規定について

★医療用テープの広告規定

一つ（一体）のテープで一つの広告

→メーカー名入りのパワーテープ（巻型テープなど面積の広いもの）

・規定内の大きさで1つのみ・・・それ以外は隠す必要あり

→メーカー名入りのチタンテープ（エレキバンみたいなもの）

・一つで一つ広告OKなので隠す必要なし

★国民スポーツ大会での広告規定違反について

→ある選手の引退セレモニーにて、引退選手の記念Tシャツを作成、複数の他の選手がセレモニーで着用した・・・イエローカード、悪質であればレッドカード対象となる。

★駅伝での広告規定違反について

→レッグ・アームウォーマーに、商品特有のデザインが施されていた。招集時は着用しておらず、走る前に着用。

★2重登録者のユニフォーム

→チーム名が2つあると、一つは広告として扱われる。

4. 施設用器具委員会報告・・・詳細は、施設検定部へ

★グループスタートの位置変更

→旧：定点からの距離 新：ライン外端 200 mm

【2032年3月31日の検定までに適用・・・検定を受けずに変更不可】

・タイルの変更

・コーン（中：40本）の追加（高さ15cm～50cm…一般的なコーンは不可）

・コーンの端が5レーンの白線を隠す形で設置する。

・従来のスタートラインの場合は、代用縁石を全て配置する。

・3000scは、従来通りとする。

★300mH（WA規格）の追加

★走高跳の実施位置について

→必ずマークのあるところで競技すること。…公認記録として扱われません。

★直線-曲線の境目に“チビコーン”を必ず設置する。

5. 公認審判員制度の改正に向けて

・WA（国際）基準に合わせてゆきたい。

- ・ 審判長、主任はブロンズレフリー取得を進める。…主任は判定の伴うものを想定
(競歩・スタート・写真など)
- ・ ブロンズレフリーの試験がいつWAから案内があるかわからない。
- ・ また案内から試験まで短期間である。
→事前に候補者を募集したい。
→男女同数が条件 (WAより示されていて陸連としてコントロールできない)
- ・ 募集は、「ブロンズレフリー」「ブロンズ写真判定」「ブロンズスターター」

※ブロンズレフリーは、現在、県陸協の推薦で取得可能である。

→将来的に「NAR」取得後、3年経過しないと受験できない形になる。

参考) WA の審判体制

1. NAR・・・16歳以上、e-ラーニング受講、受講証明を発行し、実際の大会を実技として3試合経験し、県陸協を通じてJAAFに申請する。
2. ブロンズ・・・19歳以上、NAR経験3年以上、e-ラーニング受講、オンライン試験
(種類：審判、競歩、写真判定、スターター)
3. シルバー・・・23歳以上、ブロンズ経験4年以上、e-ラーニング受講、オンラインセミナー
オンライン試験、筆記プレゼンテーション
(種類：審判、競歩、写真判定、スターター) 試験・・・2年に1回
4. 4. ゴールド・・・27歳以上、シルバー経験4年以上、e-ラーニング受講、オンラインセミナー
オンライン試験、筆記プレゼンテーション
(種類：審判、競歩、写真判定、スターター) 試験・・・2年に1回

※2027年からの審判員制度の修正・改正に向けて準備中

→**審判手帳等の在庫管理に注意！！**